

11月22日10時～12時、大栄環境株式会社 三木リサイクルセンターを見学しました。

最初に会議室にて、多くの資料を配布していただき三木事業所長よりパワーポイントにて施設について、説明をしていただきました。多くの質問にも答えていただきました。

その後、広大な敷地に配置された各施設をマイクロバスにて巡回して説明をしていただきました。この見学会に、神戸市シルバーカレッジのコーディネーターと学生の計3名の参加がありました。創エネ神戸は山田、水上、香川、大高、小嶋省、小嶋洋、渡邊、伊賀、橋本、福田（OB）岡本、の11名が参加しました。

午後には近くの吉祥寺、慈眼寺へ行き、紅葉を楽しみました。

1, 最初にバイオマスファクトリー工場の会議室にて、三木事業所長の田中氏より説明を受けました。



配布いただいた資料 ①大栄環境グループの概要、CORPORATE PROFILE、  
②サステナブルアクションブック 2024  
③三木リサイクルセンター施設見学資料 施設写真4枚  
④バイオマスファクトリー処理フロー など

三木リサイクルセンターの概要

各種廃棄物の総合的な処理施設が設置されている。

施設許可能力は一日当たり約14,000ton。

昨年完成した440ton/日処理能力の焼却炉と発電設備からなるバイオマスファクトリーがメイン。

それ以外に、RPF(固形燃料)製造施設、建設リサイクル法に対応したコンクリートガラ再生施設や木くずチップ化施設など多数のリサイクル施設を保有。

また、大規模な埋立容量を誇る最終処分場を備えたりサイクルセンターである。

扱う廃棄物は、①一般廃棄物の内の資源化プラスチック ②事業系一般廃棄物(イオンとコープこうべの店舗の食品廃棄物) ③産業廃棄物(工場系と建設系)である。

廃棄物の処理はバイオマスと廃棄物の混焼が基本である。

ごみの収集エリアは奈良～京都～岡山・広島で囲んだエリアで運用している。

バイオマスファクトリーで発電した電気は売電と工場使用で運用している。売電は全体の3/4、残りは自社工場で使用している。

廃棄物のリサイクル 建設廃材のコンクリートガラはクラッシャープラントで破碎されリサイクル砕石として土木工事の資材の一部として販売。

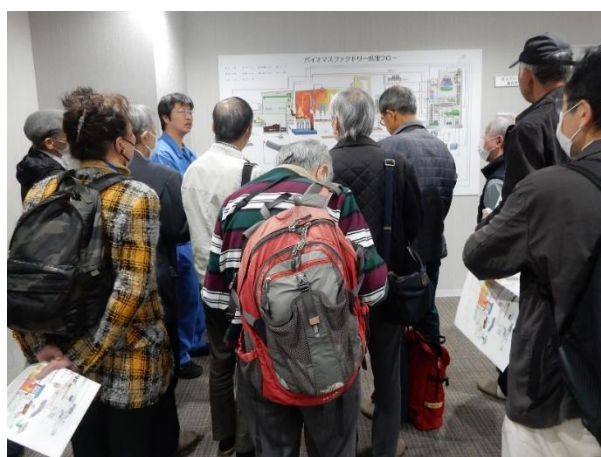
堆肥化施設は食品工場や事業系一般食品残渣から堆肥を製造している施設で10年が経過する。また、イオンと古くから食品リサイクルループを構築し、イオン店舗から発生する食品残渣から堆肥を作り、施設周辺に広がるイオン農場に施肥し作物を生産している。最近ではコープこうべとも食品リサイクルループを構築している。その他の堆肥についてはグループの農事組合法人榎の里で利用されている。施設は周辺の臭気防止のため建屋を密閉し、脱臭棟で処理したのち大気に排出する仕組みなど環境に配慮されている。

事業所では年に一度、三木かんきょうフェスティバルを催し、こどもの環境学習の場として色々なプログラムを考えている。また、地域貢献として榎の里がライスセンターの運営もしている。

2. 続いて、施設内の見学及びバスでの巡回で他の施設を見学しました。



廃棄物の混合・破碎施設を見下ろす



バイオマスファクトリー処理フローの説明を受ける



マイクロバスにて巡回する

廃棄物受け入れ口



バイオマスファクトリーの全景



焼却施設（初号機）



最終廃棄物埋め立て地全景

(文；大高松男 岡本紘一)

(写真、編集；岡本紘一)